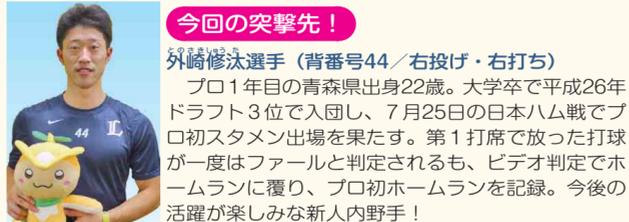




▲ドラム缶からできた楽器「スティールパン」の音色が響いた『並木・街の音楽祭』。金属の厚みにより音域が変わるため、たった1種類の楽器でオーケストラのような音色が紡がれました。会場は子育て世帯を中心に超満員！最後は子どもたちがステージ上で元気に飛び跳ねるなど、観客と一体となった演奏会でした。
8月1日(出)／並木まちづくりセンター
(動画：市民カメラマン・宮本博史)



▲突撃！ライオンズ特派員！
夏休み中の元気いっぱい小学生！左から立花空大さん、五十嵐翔汰さん、小峯康成さん、鎌田真喜さん（4人とも山口小学校5年生）。市内少年野球チーム「堀之内エコー」の仲間に参加しました！



インタビュー「外崎選手ってどんな人？」

わくわくしながら外崎選手への質問をノートいっぱい書きため準備した僕たちですが、いざ外崎選手に会うと緊張してしまいました。ライオンズに入団して初めて所沢へ来た外崎選手。お祭り好きということで、所沢の秋の風物詩「ところざわまつり」の紹介をすると関心を持ってくれました！ただ、お祭り当日はクライマックスシリーズの真っ最中。残念ですが、これからどんどん所沢の楽しいところを知ってほしいです！

7月25日の試合で放ったプロ初ホームラン。『ビデオ判定の結果を待っていた数分間、ずっとドキドキしていました。ホームランと判定されたときは、とても興奮したし、うれしかったです』と語ってくれました。次こそは文句なしのホームランを打つ外崎選手の姿が見たいです。

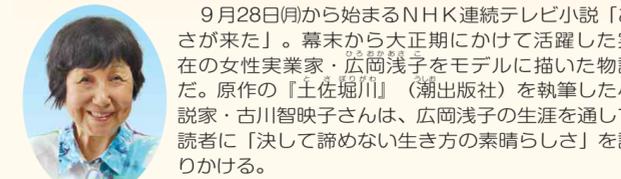
最後に、『プロになるには野球も勉強も努力し続けることが大事』『今はとにかく細かい事は気にせず、思い切りプレーしてね！』と、身振り手振りを交えながら丁寧にアドバイスをくれました。

レポートを終えて

外崎選手はインタビューに優しく笑顔で答えてくれました。普段は入ることができないベンチから、選手たちの練習が間近に見られて、とてもうれしかったです。夏休みの最高の思い出です！
☎商業観光課 ☎2998-9155



▲静岡県伊東市発祥の「スポーツとしてのまくら投げ」を競技種目とした『まくら投げ大会in所沢』。8対8の白熱した団体戦が約40畳の畳の上で繰り広げられました。浴衣を着た参加者たちは、息を切らせながら、まくら投げ合戦を楽しみました。
8月9日(日)／市民体育館サブアリーナ
(写真：市民カメラマン・津田資雄／動画：同・笠原政男)



9月28日(月)から始まるNHK連続テレビ小説「あさが来た」。幕末から大正期にかけて活躍した実在の女性実業家・広岡浅子をモデルに描いた物語だ。原作の『土佐堀川』（潮出版社）を執筆した小説家・古川智映子さんは、広岡浅子の生涯を通して、読者に「決して諦めない生き方の素晴らしさ」を語りかける。
昭和7年、青森県に生まれ、幼少期から本が大好きだったという古川さん。「自分で何かを書いてみたい」と思い、高校教諭の仕事の傍ら執筆活動をしていた。
ある日、依頼された仕事の資料を探していると、気になる一文を見つけた。「破綻寸前の家業を再興し、ピストルを懐に炭坑夫とともに働き、危険な仕事を成功させた女傑」。資料にはたった14行しか記載がなかった広岡浅子という人物について興味を抱いた瞬間だった。この出会いを転機に、古川さんは高校教諭を退職し、本格的に広岡浅子について調べ始め、小説家として筆を執ることとなる。
しかし、いざ調べてみると取材は困難を極めた。資料がとてもないのだ。古川さんは、広岡浅子が暮らした大阪や縁の地を何度も訪れ、彼女の子孫や関係者に話を伺い、5年の歳月をかけて小説『土佐堀

この暑さはいつまで続くのか
上安松 伊藤 久夫
平気で35度を越す日が連日続いていました。定年退職し、家にいる時間が多くなった今は一日中クーラーをつけてばなしの生活です。
子どものころ、唯一の楽しみはプールに行くことでした。当時、私の通っていた小・中学校、高校にはプールが無く、親にせがんでプールのレンタルに行ったりもした。今は水筒補給や熱中症対策が盛んに言われていますが、私が子どものころはクーラーもありませんでした。外で遊んでいても平気で汗が流れていました。
昔と何が違って変わったのでしょうか。自分自身の体力の衰えは自然のことですが、気温は50年前と比べ5度くらい上昇したようにも感じます。このまま行けば50年後には40度という気温が当たり前になってしまっているのではないかと心配してしまっています。



▲疫病除けを祈願したお祭りで、担ぎ手が白装束をまとうのが伝統の『林神社天王様』。今年は45人の氏子当番の中から選ばれた12人の青年が、林神社から八雲神社まで神輿を担ぎました。お祭り会場は、浴衣姿の子どもたちなど多くの人でにぎわいました。
7月25日(出)／林神社～八雲神社
(写真：市民カメラマン・三平資郎)

NHK連続テレビ小説「あさが来た」の原作者

古川 智映子さん (けやき台在住)

川」を書き上げた。「当時はお金に余裕がなく、取材費用を捻出するのも大変でした。書き上げるまでの期間は常に浅子と共にいる気がし、諦めそうになる心を浅子に励ましてもらっているようでした」と、当時の苦労を思い出しながら古川さんはほほ笑む。
小説を書き上げたからといってお金になるかも分からない。執筆中に失明寸前の病も患った。それでも書くことを諦めなかった古川さんは、「女性が認められない厳しい時代の中、浅子実践した『九転千起』、人より多く転んでもそのたびに起き上がる。何があっても諦めない生き方は、時代を超えて受け継いでいくべき不変の生き方ではないでしょうか」と語る。
広岡浅子が亡くなって約100年。彼女が携わった事業は今なお健在で、大同生命は創業113年を迎え、創立を担った日本女子大学は、日本の女子教育に貢献している。「女性の活躍が続く今の時代にこそ、幕末の日本の夜明けを駆け抜けた広岡浅子という女性を皆さんに知ってもらいたい」と話す古川さんの輝くまなざしが忘れられない。



▲小説『土佐堀川』と古川さんが収集した資料の一部



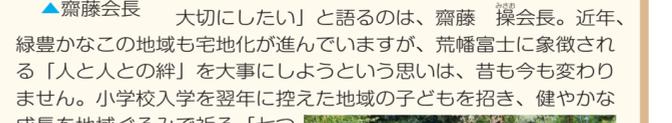
投稿写真

▲キラキラ光る1、300個のキャンドルが所沢の夜空を彩った「ライトダウンin航空公園」。今年で3回目を迎えるライトダウンイベントは、カウントダウンにより会場周辺の電灯を消灯。エネルギーの大切さを改めて感じました。キャンドルの優しい明かりに包まれながら、ステージではミニコンサートの音色が響き、子どもたちの瞳も自然とキラキラと光り輝いていました。
7月29日(火)／所沢航空記念公園噴水前広場
(写真・文：東所沢 堤 美香)

地域の絆 やっぱり自治会・町内会でしょ！16
ご近所同士で力を合わせ、さまざまな課題解決や地域の絆づくりを行っている自治会・町内会をご紹介します。

荒幡町内会

～「荒幡富士」の麓に広がる安心の絆～
市の南西部、狭山丘陵の一角に「富士山」があることをご存知でしょうか。「荒幡富士」は、地域に住む人々の心をつなぐと、明治時代に旧荒幡村の住民が力を合わせ、15年の歳月をかけて完成させた手作りの富士山です。この荒幡富士一帯を区域とする荒幡町内会は、現在約2,200世帯で活動する市内でも規模の大きな町内会です。「さまざまな事業を通して生まれるつながりを大切にしたい」と語るのは、齋藤 操会長。近年、緑豊かなこの地域も宅地化が進んでいますが、荒幡富士に象徴される「人と人の絆」を大事にしようという思いは、昔も今も変わりません。小学校入学を翌年に控えた地域の子どもを招き、健やかな成長を地域ぐるみで祈る「七つのお祝い」は、荒幡富士の浅間神社で60年も続いている荒幡町内会の独自の行事です。



▲齋藤会長
荒幡町内会は、特に防災活動に力を入れています。「大災害時に一人でも多くの命を助け、被害を最小限に止める」ことを「七つのお祝い」の様子
目指して、早くから高齢者や障害者など災害時に支援が必要な方への先駆的な取り組みを行い、全会員世帯を対象とした「防災安否確認カード」の作成や、災害発生初期の段階で近隣住民同士が集まり安否確認をする「0次避難場所」の体制などを整備しました。これらの取り組みには地域の方々の協力が不可欠ですが、防災活動に長年取り組んできた齋藤会長は「地域の理解がかなり進んでいます」と胸を張ります。例年、8月の自主防災訓練には、自治会単体の訓練としては最大規模の約800人が参加します。今年は防災リーダー育成のために、避難所設営と宿泊体験の訓練も行い、地域防災力の一層の向上を目指します。

この他、資源ごみの回収では、持ち去り対策の工夫として戸別回収を行い、順調に実績を伸ばしています。また、地域を花で彩る「フラワープロジェクト」の始動など、さまざまな事業に積極的に取り組む荒幡町内会の活動は、今日も地域の絆のシンボル・荒幡富士の麓で続いています。
◀次回は柳瀬地区の城自治会を紹介します▶
☎地域づくり推進課 ☎2998-9083

◆テーマ「アツイ！」◆
暑さで分かった、人のあたたかさ
気温37度、38度。連日、各地から最高気温の二桁も暑さで有名になりました。私のふるさと、山梨県甲府市も暑さで有名になりました。お盆休みで帰省したときに感じた、息苦しくて身の置きどころがないくらい暑い暑さ。ふと、季節は正反対ですが、俄万智さんのこんな歌を思い出しました。
「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ
気温が下がる方になるのを待って、母と散歩している人、知っている人や知らない人とすれ違いますが、そのたびに「今日も暑かったですね」と笑いながらあたたかさや交わりあう姿に、生まれた町の人々の心のあたたかさを懐かしく感じました。

